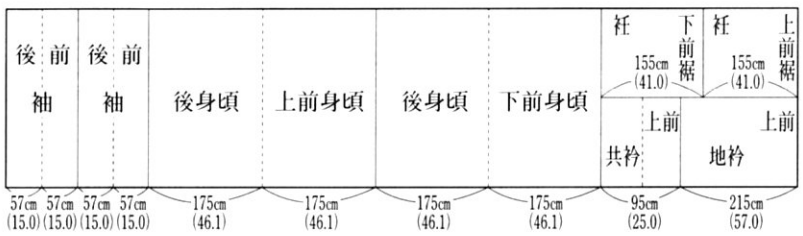
平成24年度和裁士技能検定（２級）学科試験解答

実施日：平成25年３月10日
所用時間：60分

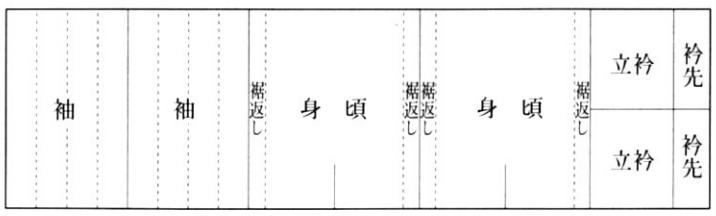
（1）次の５問について、その裁ち方を図解し、各部名称をよく分かるように記入しなさい。また各部は、寸法に応じて配分して裁ち切るところを実線、折り山は点線で示しなさい。

（配点各問６点）

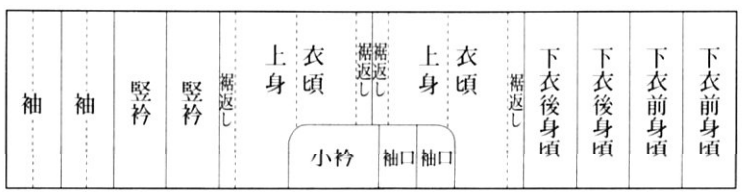
① 並幅物12.4m（3丈2尺6寸5分）、袖丈出来上がり53cm（1尺4寸）、繰越3cm（8分）、褄下（衿下）出来上がり81.5cm（2尺1寸5分）、他は標準寸法とする。
（注）袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衽裾などの位置を明記すること。



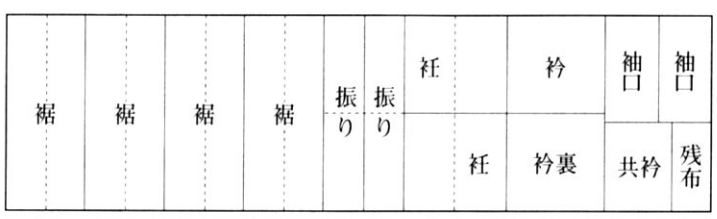
② 並幅物12m（3丈1尺7寸）の反物で本裁女物長襦袢を作りたい。その裁断図を記入しなさい。



③ 並幅物12m（3丈1尺7寸）の表地で二部式雨コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。



④ 並幅物12m（3丈1尺2寸）で留袖用比翼を作りたい。裁断図を記入しなさい。但し、袖は口、振りとし、衿裏共布とする。



⑤ 並幅物4m（1丈0尺5寸）で一つ身長着を作りたい。裁断図を記入しなさい。

（注）（1）の裁断図は解答の一例とお考えください。地域差、その他によって多少の相違点があることを十分考慮のうえで採点してください。

（2）次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置に付けなさい。

（配点各問２点）

（ ○ ）1. レーヨンは虫に害されるが、ナイロンは虫に害されない。
（ ○ ）2. 生糸は、２本のフィブロインとそれらを包んでいるにかわ質のセリシンのほとんどで占められている。
（ ○ ）3. シルケット加工した木綿は、絹のような光沢がある。
（ × ）4. 家蚕の繭糸１本の太さは約15デニールである。
（ × ）5. ミシン用のカタン糸と絹のミシン糸では原糸が違うが、両方共に二本撚りで、同じ撚り方で撚ってある。
（ ○ ）6. 麻繊維は植物繊維のジンピ繊維である。
（ × ）7. 絹織物の中で綾織物には、黄八丈、お召し、紬、パレスなどがある。
（ × ）8. 唐草模様は日本古来のものである。
（ × ）9. 色の三原色とは、色相、明度、彩度である。
（ × ）10. 茶屋辻模様は全体が茶色系統の一色染めである。
（ × ）11. 総絞りの裏打ちには、共糸で裏打ちしなければならない。
（ × ）12. 色の寒暖は、有彩色だけでなく無彩色にもある。
（ ○ ）13. 婦人用羽織の衿用布は羽織丈に約27cmを加えたものを２倍取ればできる。
（ × ）14. 男物羽織の抱き紋の位置は、反物の巾の中央にある。
（ ○ ）15. 羽織の鉄砲付けは、返し口を衿肩回りに開ける方法と肩山と紐付けの間に開ける方法がある。
（ × ）16. 女物長着の袖の柄は右も左も後ろにポイントを置くとよい。
（ ○ ）17. 裁ち切り衿肩明寸法＝（首回り）×1／4＋（背縫い代）である。
（ ○ ）18. 1反の反物から羽織を２枚作るとき、前身頃より衿を取る場合は背縫いが深くなるから、必ず裄を測ってから裁つべきである。
（ ○ ）19. 和服の一つ身、紋の位置は背紋下り（衿付けより）4cm（1寸）、袖紋下り（袖山より）6cm（1寸5分）、抱き紋下り（肩山より）11.5cm（3寸）である。
（ × ）20. 長襦袢の後身幅、前身幅は、着物の下に着るので、着物のそれより狭くするのがよい。
（ × ）21. 男物長着の内揚げの位置は後より前を低くするのが普通であり、その位置は帯の下に隠れるような高さがよく、普通肩より測って着丈の5／10位下がった位置が適当である。
（ × ）22. 道行コートはフォーマルなもので、寒い時はもちろん、どんなときで脱ぐ必要はない。
（ ○ ）23. 都衿コートの小衿布は普通80～95xm（2尺1寸～2尺5寸）位の丈を取っておく。
（ × ）24. 千代田衿のコートの小衿丈は並幅で85cmあればよい。
（ ○ ）25. 袋帯や名古屋帯を締めるとき、胴（手）は「わ」を下にして締める。
（ × ）26. 帯も着物と同様に、正式礼装用として格式が高いのは、織りの帯より染めの帯である。
（ × ）27. 男子礼装は黒羽二重紋付き長着二枚重ねに袴を付け、羽織も黒羽二重の染め抜き五つ紋に黒紐を付ける。
（ ○ ）28. 男物長着の内揚げ位置は後より前を低くするのが普通であり、その位置は帯の下に隠れるような高さがよく、普通肩より測って着丈の4／10位下がった位置が適当である。
（ × ）29. 男児五歳の祝着の袖は振りを付けて、丸味を付ける。
（ ○ ）30. 一つ身紋の位置は、背紋下り（衿付けより）4cm（1寸）、袖紋下り（袖山より）6cm（1寸5分）、抱き紋下り（肩山より）11.5cm（3寸）である。
（ ○ ）31. 打掛は掛衿（共衿）と袖口布を付けない方が正しい。
（ × ）32. ミシン針は表示数が小さくなるほど細くなるが、針丈は変わらない。和針の表示数は前の数が大きいほど太く、後の数が小さいほど針丈が長くなる。
（ × ）33. 和裁の作業面の照度は100ルクスが望ましい。
（ × ）34. 江戸小紋は、徳川中期に名付けられた名称である。
（ ○ ）35. 裁ち板には、柳、朴、桂、銀杏などのよく枯れたものが適している。